

医療安全だより

発行2014年2月
vol. 21

病院外来棟1階に患者さんのための図書室を設置しました。

医療安全と図書室。

いったいなんのつながりがあるのか、不思議に思う方も多いでしょう。

病院の図書といえば、待合室の片すみに新聞や娯楽雑誌、大衆情報誌などが置いてあるコーナーを想像されるかもしれませんが。こういった図書コーナーはいまでも病院やクリニックに設置されていて、診察待ち時間の退屈しのぎにはちょうどいいものです。

ですが今回作られた「患者図書室」は、今までの図書コーナーとは少々おもむきが違います。

それはこの患者図書室が、

「より適した医療を、より安全に受けるために、患者さん自身が調べたり、学んだりできる場所」

というテーマをもって作られた点にあります。

健康のこと。病気のこと。からだのことをもっと知りたい。

ご自分やご家族が病気になったとき、きっとみなさんはその病気について、知りたい、調べたいと思うでしょう。

その病気がいったいどういうものなのか。何が原因でその病気になるのか。病気が進むとどうなるのか。どのような治療方法があるのか・・・。

街の図書館にはたくさんのお本がありますが、一般の書物と専門書のどちらも置いてあるので、どれを読めばいいのか分からない。それに図書館までわざわざ行くのも大変です。



インターネットで情報を探すこともできますが、こちらは図書館以上に情報が多

く、中にはウソか本当かも分からないウワサのようなことまで書いてあったりして、ますます混乱してしまうでしょう。

そこで考えられたのが患者図書室です。

より手軽に、より正しく病気のことを知ることができる場所。より健康に生活するための知恵が見つかる場所。そんな場所が病院の中にあれば、入院中や診察のあいまに、またお見舞いの帰りに、ちょっと立ち寄ってみることができるのではないのでしょうか。

病気を知ること、病気を治すことにも役立ちます。

患者図書室には、専門書のように詳しい本は置いてありません。簡単で分かりやすく説明している本を選んでいきます。そこに書いてあることはあくまで一般的なことなので、もしかしたら自分の状態とはちがっているかもしれません。

同じ名前の病気でも、症状や経過は人によってちがうものです。正確に知るためには診察している医師に聞くのが一番いいでしょう。ですが、その病気のことを前もって調べておけば、医師の説明も理解しやすくなります。また、一般的な症状と自分の症状とを比べて、どこがどのようにちがうかを医師に伝えることができれば、それによって医師はより正確に病気を判断し、より適した

治療方法を考えることができるでしょう。もし治療方法がいくつかあるなら、自分の生活に合った治療方法を選ぶことができるかもしれません。

病気を知るということは、患者さんが自分の病気と向き合い、治していこうという意識をもつことにつながります。そしてそれは、医師と患者さんが協力して一緒に病気を治していくことにつながるのです。

患者図書室のこれから

鋼管病院の図書室はまだまだ小さく、書籍も多くはありません。これから少しずつ本を増やし、より利用しやすく、また居心地の良い場所にしていきたいと思っています。

この小さな図書館が、みなさんの健康のために少しでも役に立てたら幸いです。



場所 病院外来棟 1 階 (救急入口はいつでもすぐ)
書棚開放時間 月～金 8:30～17:00 土 8:30～14:00
(日曜・祝日は書棚のみ閉めています)